トピックス

先進地視察（栃木県）を実施しました

茨城県都市計画協会

■先進地視察の概要

都市計画行政及び景観形成事業推進に関する知識の向上を図るため、令和5年1月18日（水）に県都市計画協会が主催して先進地視察を行いました。今回は、栃木県宇都宮市と栃木市を研修先に選定し、両市の職員や関係者の皆様よりご説明やご案内をいただきました。県内22市町村から35名にご参加いただきました。

■宇都宮市

午前の宇都宮市では、LRT（ライトライン）の軌道や停留場などの整備状況を車窓に見ながら、説明会場である、始発駅に併設する形で昨年11月に開館したライトキューブ宇都宮（宇都宮駅東口交流拠点施設）に到着しました。

整備された併用軌道

LRTやLRTを生かしたまちづくり等の取組みについて宇都宮市NCC推進課、LRT企画課及び市街地整備課の皆様から説明と現地案内をしていただきました。

1　宇都宮市における立地適正化計画等の取組みについて

宇都宮市は約52万人の人口を擁する都市となっており、中心部とそれを囲む古くからの地域（旧町村）が3環状12放射道路等のネットワークで結ばれています。こうした構造を生かし、各地域において将来にわたり身近な場所で快適な日常生活が送れるよう、拠点化とネットワーク化を進める「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」をコンセプトにまちづくりが進められています。

宇都宮市の説明の様子（ライトキューブ宇都宮）

NCCを支える公共交通については、後述するLRTのほか、タクシー車両などを活用した地域内交通の充実が挙げられます。さらに、バス・地域内交通にLRTがシームレスに利用できるよう上限運賃や乗継割引などの運賃負担軽減策も取り入れています。

NCCの考え方については、立地適正化計画にも反映されています。鉄道駅の周辺などアクセスしやすいエリアを都市機能誘導区域（10か所）や市街化調整区域の地域拠点（7か所）に位置付け、医療・福祉等の都市機能誘導施設に対し、補助制度を設けて立地の促進を図っています。また、居住誘導区域への住宅立地を進めるための補助制度なども設けています。

立地適正化計画における防災指針については、令和元年東日本台風により市内中心部の田川流域で浸水被害が発生したことを踏まえて検討が進められ、令和3年5月に策定されました。総合的な治水・雨水対策と合わせて誘導施設の浸水対策促進等の「備える」取組みを中心に、防災まちづくりの取組方針等を位置付けています。具体的には、3m以上の浸水想定区域（市街化調整区域）における開発抑制や3m未満の区域における生活利便施設に対する浸水対策助成等の施策が進められています。

2　芳賀・宇都宮LRTについて

NCCのまちづくりのシンボルともなっているLRTは、東西方向の基幹公共交通として、令和5年8月の開業を目指して整備が進められています。JR宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地（芳賀町）までの総延長14.6㎞、停留場19か所の計画です。また、公設型上下分離方式という、市・町が軌道・車両等を整備・保有し、民間が事業運営を行う事業形態を採用しています。

LRTの利用促進を図るため、トランジットセンターと呼ばれる乗換施設を設け、公共交通間の連携を強化することとしています。

LRTの開業を控えて、沿線の住宅地の人口増加や、路線価の上昇などの効果も出てきており、将来的には中心市街地であるJR宇都宮駅西側へのLRT導入も計画されているところです。

宇都宮駅東口の停留所施設

3　宇都宮駅東口地区整備事業について

LRTの起点となるJR宇都宮駅東口においては官民連携により交流拠点施設の整備が行われました。民間施設としての商業施設や病院、ホテル等とともに、公共施設としてのコンベンション施設（ライトキューブ宇都宮）、交流広場等が整備され、新たな都市拠点として、「人・モノ・情報」の交流促進や賑わいの創出、都市の魅力向上が図られておりました。

ライトキューブ宇都宮と交流広場等

■栃木市

午後の栃木市では、「蔵の街」として、歴史的資源を生かしたまちづくりについて、栃木市都市計画課、蔵の街課及び栃木市観光ボランティア協会の皆様から説明と現地案内をしていただきました。

1　栃木市における歴史的町並み形成とまちづくりについて

栃木市の中心部は、江戸時代から明治時代にかけて、巴波川を利用した集荷や例幣使街道の宿場町として栄え、蔵造りの街なみが広がっていましたが、昭和40～50年代になると近代化の影響で蔵造りの建物が減ってきたことから、昭和50年代以降、歴史的資源を生かしたまちづくりを進めてきました。

栃木市の説明の様子（伝建地区拠点施設）

取り組みの一つとして、歴史的町並み景観形成要綱の策定があげられます。これは、蔵の集積度、地区の特性を考慮しながら「歴史的町並み景観形成地区」の範囲を指定して、地区の特色を生かした街並みづくりを誘導するものです。例えば、蔵に合わせて建物の基調色を黒や白にしたり、高さを10mにする等であり、様々な民間の建物の修景が図られました。また、県庁堀、庁舎別館、サインの修景事業等をとおして、歴史的町並みの形成が進み、市民の景観への意識が向上するとともに、中心市街地への観光客数が増加する等賑わい創出につながりました。

巴波川沿いの統一されたまちなみ

中心部における景観に考慮したまちなみ

一方、今後の課題としては、官民一体となった歴史的町並みの持続的推進、特に後継者のいない歴史的建造物の保存活用等があげられるとのことです。

2　栃木市嘉右衛門町伝統的建造物群保存地区のまちづくりについて

旧日光例幣使街道沿いには、江戸後期から昭和初期にかけ、土蔵造りの「見世蔵」と「木造真壁出桁造」の店舗が多く建築されています。店舗の屋根を桟瓦葺きとし、街道に面する1階の部分に木製建具を設置した開放的なつくりが特徴的です。

これらの町並みを保全していくために、伝統的建造物群保存地区として平成24年3月に都市計画決定し、平成24年7月に重伝建地区に選定されたほか、伝建地区の伝統的建造物の修理費用に対し、建物の場合10分の8（補助限度額1,200万円）を限度に補助を行っています。

一方、伝建地区の拠点施設として、地区内の味噌工場跡地を取得し、官民共同による商業やシェアオフィス、ガイダンス施設等が整備されました。

伝建地区拠点施設（外観）

■おわりに

今回の先進地視察をとおして、各市町村からは今後の交通政策や景観を考慮したまちづくりの参考になったとの声が多く聞かれ、充実した視察になったと考えております。ご協力頂きました両市の職員や関係者の皆様に深く感謝申し上げます。